

# サブスクリイバからのCUCMパブリッシャの再構築

## 内容

---

### [概要](#)

### [バックグラウンド](#)

### [クラスタデータの収集](#)

### [すべてのサブスクリイバでレプリケーションを停止する](#)

### [CUCMパブリッシャのインストール](#)

### [パブリッシャのプロセスノード値の更新](#)

### [パブリッシャノードのリポート](#)

### [クラスタ認証の確認](#)

### [新しいバックアップの実行](#)

#### [バックアップデバイスの追加](#)

#### [手動バックアップの開始](#)

### [サブスクリイバDBからのパブリッシャの復元](#)

#### [復元ステータス](#)

### [パブリッシャデータベースでの健全性チェックの実行](#)

### [クラスタのリポート](#)

### [レプリケーション設定の要件の確認](#)

### [複製の設定](#)

### [復元後](#)

#### [サービスのアクティブ化](#)

#### [復元されなかったデータのインストール](#)

### [トラブルシューティング](#)

#### [クラスタが認証されない](#)

#### [復元でCCMDBコンポーネントが処理されない](#)

#### [複製の失敗](#)

#### [電話機が登録されない、またはサービスにアクセスできない](#)

---

## 概要

このドキュメントでは、事前のバックアップやルートアクセスなしで、サブスクリイバデータベースからCisco Unified Communications Manager(CUCM)パブリッシャノードを復元する方法について説明します。

## バックグラウンド

CUCMの初期のバージョンでは、パブリッシャノードは構造化照会言語(SQL)DBの唯一の権威ソースと見なされていました。

したがって、ハードウェア障害やファイルシステムの破損が原因でパブリッシャノードが失われた場合、パブリッシャノードを回復する唯一の方法は、DRS ( デイザスタリカバリシステム ) バックアップからデータベースを再インストールして復元することです。

一部のお客様では、適切なバックアップを保持しなかったり、古いバックアップが存在していたため、唯一の選択肢は、パブリッシャサーバノードを再構築して再設定することでした。


CUCMバージョン8.6(1)では、サブスクリバデータベースからパブリッシャDBを復元するための新機能が導入されました。

このドキュメントでは、サブスクリバからパブリッシャDBを正常に復元するために、この機能を利用する方法について説明します。

クラスタ全体の完全なデイザスタリカバリフレームワーク(DRF)バックアップを保持することを強く推奨します。

このプロセスはCUCM DB設定のみをリカバリするため、証明書、保留音(MoH)、TFTPファイルなどの他のデータはリカバリされません。これらの問題を回避するには、クラスタ全体のDRFバックアップを保持します。

---

 注：開始する前に、このドキュメントで説明されているプロセス全体を確認し、精通しておくことを推奨します。

---

## クラスタデータの収集

パブリッシャを再インストールする前に、前のパブリッシャに関する詳細情報を収集することが重要です。これらの詳細は、元のパブリッシャのインストールと一致している必要があります。

- IP アドレス
- ホスト名
- ドメイン名
- セキュリティパスフレーズ
- 正確なCUCMバージョン
- インストール済みのCisco Options Package(COP)ファイル

リストの最初の3つの項目を取得するには、現在のサブスクリバノードのCLIでshow network clusterコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
admin:
```

```
show network cluster
```

```
172.18.172.213 cucm911ccnasub1 Subscriber authenticated
```

```
172.18.172.212 cucm911ccnapub
```

```
    Publisher not authenticated - INITIATOR
```

```
since Tue Dec 3 12:43:24 2013
172.18.172.214 cucm911ccnasub2 Subscriber authenticated using TCP since
Sun Dec 1 17:14:58 2013
```

この場合、IPアドレスは172.18.172.212、ホスト名はcucm911ccnapubであり、パブリッシャに対してドメイン名が設定されていません。

セキュリティパスフレーズ ( リストの4番目の項目 ) は、サイトのドキュメントから取得されます。

セキュリティパスフレーズが不明な場合は、最善の方法で推測し、CUCMのバージョンに基づいて必要に応じて確認および修正できます。

セキュリティパスフレーズが正しくない場合、この状況を修正するにはクラスタの停止が必要です。

正確なCUCMのバージョンとインストールされているCOPファイル ( リストの最後の2つの項目 ) を取得するには、show version activeコマンドからシステム出力を収集します。

```
<#root>
```

```
admin:
```

```
show version active
```

```
Active Master Version:
```


```
9.1.2.10000-28
```

```
Active Version Installed Software Options:
```

```
No Installed Software Options Found.
```

この場合、バージョン9.1.2.10000-28はアドオンCOPファイルなしでインストールされます。

---

 注：一部のCOPファイルはパブリッシャにインストールされているものの、サブスクライバにはインストールされていない場合があります。その逆も同様です。この出力はガイドラインとしてのみ使用してください。

---

## すべてのサブスクライバでレプリケーションを停止する

パブリッシャをインストールする際には、レプリケーションによって現在のサブスクライバDBが設定および削除されないことが重要です。これを防ぐには、すべてのサブスクライバでutils dbreplication stopコマンドを入力します。

```
<#root>
```

admin:

```
utils dbreplication stop
```

```
*****  
This command can delete the marker file(s) so that automatic replication setup  
is stopped  
It can also stop any replication setup currently executing  
*****
```

```
Deleted the marker file, auto replication setup is stopped
```

```
Service Manager is running  
Commanded Out of Service  
A Cisco DB Replicator[NOTRUNNING]  
Service Manager is running  
A Cisco DB Replicator[STARTED]
```

```
Completed replication process cleanup
```

```
Please run the command 'utils dbreplication runtimestate' and make sure all nodes  
are RPC reachable before a replication reset is executed
```

## CUCMパブリッシャのインストール

適切なバージョンのブート可能なイメージを収集し、適切なバージョンにアップグレードしてインストールを実行します。

---


 注：ほとんどのCUCM Engineering Special(ES)リリースはすでにブート可能です。

---

パブリッシャをインストールし、前述のIPアドレス、ホスト名、ドメイン名、およびセキュリティパスフレーズに正しい値を指定します。

## パブリッシャのプロセスノード値の更新

---

 注：パブリッシャは、そのサブスクリバからDBを復元するために、少なくとも1つのサブスクリバサーバを認識している必要があります。すべてのサブスクリバを追加することをお勧めします。

---


ノードリストを取得するには、現在のサブスクリバのCLIでrun sql select name,description,nodeid from processnodeコマンドを入力します。

名前の値には、ホスト名、IPアドレス、または完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用できます。

CUCMバージョン10.5(2)以降を実行する場合、ノードをSystem > Serverに追加する前に、パブリッシャのCLIでutils disaster\_recovery prepare restore pub\_from\_subコマンドを実行する必要があります。

```
admin:utils disaster_recovery prepare restore pub_from_sub
admin: █
```

---

 **警告:**CUCMバージョン10.5(2)以降を使用している多くのユーザは、utils disaster\_recovery prepare restore pub\_from\_subコマンドをスキップしますが、これは重要なコマンドです。このドキュメントの手順は省略しないでください。

---

ノードリストを受信したら、System > Serverの順に移動し、EnterpriseWideData以外のすべての名前の値をPublisher Server Unified CM Administrationページに追加します。

名前の値は、System > ServerメニューのHost Name/IP Addressフィールドに対応している必要があります。


```
<#root>
```

```
admin:
```

```
run sql select name,description,nodeid from processnode
```

name	description	nodeid
EnterpriseWideData		1
172.18.172.212	CUCM901CCNAPub	2
172.18.172.213	CUCM901CCNASub1	3
172.18.172.214	CUCM901CCNASub2	4

---

 **注:** デフォルトのインストールでは、パブリッシャホスト名がプロセスノードテーブルに追加されます。名前列にパブリッシャのIPアドレスが表示されている場合は、これをIPアドレスに変更できます。この場合は、パブリッシャエントリを削除せずに、現在のホスト名/IPアドレスフィールドを開いて変更します。

---

Server Configuration	Server Configuration
<div style="text-align: right;"> <a href="#">Save</a> <a href="#">Delete</a> <a href="#">Add New</a> </div>	<div style="text-align: right;"> <a href="#">Save</a> <a href="#">Delete</a> <a href="#">Add New</a> </div>
<b>Status</b> <i>i</i> Status: Ready	<b>Status</b> <i>i</i> Status: Ready
<b>Server Information</b> Database Replication: Publisher Host Name/IP Address*: <u>CUCM901CCNAPub</u> IPv6 Name: <input type="text"/> MAC Address: <input type="text"/> Description: <input type="text"/>	<b>Server Information</b> Database Replication: Publisher Host Name/IP Address*: 172.18.172.212 IPv6 Name: <input type="text"/> MAC Address: <input type="text"/> Description: <input type="text"/>
<b>Location Bandwidth Management Information</b> LBM Hub Group: < None > <a href="#">View Details</a>	<b>Location Bandwidth Management Information</b> LBM Hub Group: < None > <a href="#">View Details</a>
<div style="text-align: right;"> <a href="#">Save</a> <a href="#">Delete</a> <a href="#">Add New</a> </div>	<div style="text-align: right;"> <a href="#">Save</a> <a href="#">Delete</a> <a href="#">Add New</a> </div>

```

admin:run sql select name,description,nodeid from processnode
name          description      nodeid
-----
EnterpriseWideData 1
172.18.172.212    CUCM901CCNAPub  2
172.18.172.213    CUCM901CCNASub1 3
172.18.172.214    CUCM901CCNASub2 4
          
```

**Servers (1 - 3 of 3)**

Find Servers where: Host Name/IP Address  begins with

<input type="checkbox"/>	Host Name
<input type="checkbox"/>	<a href="#">172.18.172.212</a>
<input type="checkbox"/>	<a href="#">172.18.172.213</a>
<input type="checkbox"/>	<a href="#">172.18.172.214</a>

[Add New](#)

## パブリッシャノードのリブート

プロセスノードの変更が完了した後でパブリッシャを再起動するには、utils system restartコマンドを入力します。

```

<#root>
admin:
utils system restart

Do you really want to restart ?
Enter (yes/no)? yes

Appliance is being Restarted ...
Warning: Restart could take up to 5 minutes.

Shutting down Service Manager. Please wait...
\Service Manager shutting down services... Please Wait

Broadcast message from root (Tue Dec 3 14:29:09 2013):

The system is going down for reboot NOW!
Waiting .

Operation succeeded
  
```

## クラスタ認証の確認

パブリッシャが再起動した後、変更を正しく行い、セキュリティパスフレーズが正しい場合、クラスタは認証済み状態である必要があります。これを確認するには、show network clusterコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
admin:
```

```
show network cluster
```


```
172.18.172.212 cucm911ccnapub Publisher authenticated
172.18.172.213 cucm911ccnasub1
```

```
Subscriber authenticated using TCP since
Tue Dec 3 14:24:20 2013
```

```
172.18.172.214 cucm911ccnasub2
```

```
Subscriber authenticated using TCP since
Tue Dec 3 14:25:09 2013
```

---


 注：サブスクリバが認証済みとして表示されない場合は、このドキュメントの「トラブルシューティング」セクションを参照して、この問題を解決してから次に進んでください。

---

## 新しいバックアップの実行

使用可能な以前のバックアップがない場合は、DRSページでクラスタバックアップを実行します。

---

 注：復元にはサブスクリバDBを使用できますが、DB以外のコンポーネントを復元するにはバックアップが必要です。


---

使用可能なバックアップがない場合は、新しいバックアップを実行します。バックアップがすでに存在する場合は、このセクションをスキップできます。

## バックアップデバイスの追加

ナビゲーションメニューを使用して、ディザスタリカバリシステムに移動し、バックアップデバイスを追加します。

## Status

 Status:Ready

## Backup device name

Backup device name\*

## Select Destination\*

**Tape Device**

Device Name

-- Not Selected -- ▾

**Network Directory**

Host name/IP address

Path name

User name

Password


Number of backups to store on Network Directory

Save

Back

## 手動バックアップの開始

バックアップデバイスを追加したら、手動バックアップを開始します。

 注：パブリッシャノードにCCMDBコンポーネントが登録されていることが重要です。



Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

**Backup Status**

Refresh

**Status**

SUCCESS: Backup Completed...

**Backup details**

Tar Filename: 2013-12-03-14-44-30.tar  
 Backup Device: NETWORK  
 Operation: BACKUP  
 Percentage Complete: 100%

Feature	Server	Component	Status	Result <sup>⚠</sup>	Start Time	Log File <sup>⚠</sup>
ELM	CUCM911CCNAPUB	ELM-AGENT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:44:30 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_elm_elm-agent.log</a>
ELM	CUCM911CCNAPUB	ELM-SERVER	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:44:32 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_elm_elm-server.log</a>
CDR_CAR	CUCM911CCNAPUB	CAR	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:44:34 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_cdr_car-car.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	CDPACT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:08 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_cdpaact.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	SYSLOGAGT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:08 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_syslogagt.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	CCMPREFS	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:09 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_ccmprefs.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	PLATFORM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:10 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_platform.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	CLM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:10 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_clm.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	COMDB	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:10 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_comdb.log</a>
UCM	CUCM911CCNAPUB	TCT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:27 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnapub_ucm_tct.log</a>
UCM	CUCM911CCNASUB1	PLATFORM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:27 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnasub1_ucm_platform.log</a>
UCM	CUCM911CCNASUB1	CLM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:31 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnasub1_ucm_clm.log</a>
UCM	CUCM911CCNASUB2	PLATFORM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:31 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnasub2_ucm_platform.log</a>
UCM	CUCM911CCNASUB2	CLM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 14:46:34 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-44-30_b_cucm911ccnasub2_ucm_clm.log</a>

## サブスクリバDBからのパブリッシャの復元

Disaster Recovery Systemページで、Restore > Restore Wizardの順に移動します。

現在のバックアップが使用可能であり、前のセクションをスキップした場合は、[機能の選択]セクションで、Enterprise License Manager(ELM) ( 使用可能な場合 )、CDR\_CAR、およびUnified Communications Manager(UCM)のすべての機能チェックボックスをオンにします。

前のセクションで実行したバックアップを使用する場合は、UCMチェックボックスだけをオンにします。

Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

Step3 Restore - Select the type of Restore

**Status**

Status: Ready

**Select Features\***

ELM  
 CDR\_CAR  
 UCM

**Backed up components in TAR:**


Feature	Server	Component
ELM	CUCM911CCNAPUB	ELM-AGENT
ELM	CUCM911CCNAPUB	ELM-SERVER
CDR_CAR	CUCM911CCNAPUB	CAR
UCM	CUCM911CCNAPUB	CDPAGT
UCM	CUCM911CCNAPUB	SYSELOGACT
UCM	CUCM911CCNAPUB	CCMPREFS
UCM	CUCM911CCNAPUB	PLATFORM
UCM	CUCM911CCNAPUB	CLM
UCM	CUCM911CCNAPUB	CCMDB
UCM	CUCM911CCNAPUB	TCT
UCM	CUCM911CCNASUB1	PLATFORM
UCM	CUCM911CCNASUB1	CLM
UCM	CUCM911CCNASUB2	PLATFORM
UCM	CUCM911CCNASUB2	CLM

[Next] をクリックします。パブリッシャノードのチェックボックス(CUCM911CCNAPUB)をオンにし、復元が行われるサブスクリバDBを選択します。次に、Restoreをクリックします。

**Step4 Restore - Final Warning for Restore**

---

**Status**

 Status:Ready

---

**Warning**

- \* Feature(s) UCM have been selected for restore. Select the servers on which these features need to be restored. Once the selection has been made on a server and all the existing data for the selected feature will be lost.
- \* The following is applicable in case of a cluster setup : If node selected is publisher, whole cluster database will be restored. This may take upto 5 minutes depending on the size of the database being restored. In case of only the publisher restore, please restart the entire cluster after the successful restore of the publisher.
- \* **The following is applicable in case of a cluster setup : If you are attempting to restore the entire cluster on a freshly installed publisher, then click on the publisher to become cluster aware. If the publisher becomes cluster aware then select the servers and click on Restore button which will start the restore process. The subsequent nodes can then be restored. For further details please refer to the Disaster Recovery System Administration Guide.**

---

**One-Step Restore**

Perform a one-step restore of entire cluster.

---

**File integrity check**

Perform file integrity check using SHA1 Message Digest

---

**Select the Servers to be restored for each feature\***

- UCM
  - CUCM911CCNAPUB
  - CUCM911CCNASUB1
  - CUCM911CCNASUB2

---

**Select the server from which database data need to be restored**

- \* This feature can be used if the Publisher database is in inconsistent state and needs to be restored from duplicate database in subscriber. If a subscriber database will be restored from selected subscriber. **Also, this restore process will not restore database on any of the subscribers even if they are selected.** Please ensure selected subscriber is up and connected to the cluster before restore process starts.

Select server name

---

## 復元ステータス

復元がCCMDBコンポーネントに到達すると、「Status」テキストが「Restoring Publisher from Subscriber Backup」と表示される必要があります。

Status							
Restoring server [CUCM9110CNAPUS], please wait ...							
Restore details							
Tar Filename:	2013-12-03-14-46-20.tar						
Backup Device:	NETWORK						
Operation:	RESTORE						
Percentage Complete:	78%						
Feature	Server	Component	Status	Result <sup>***</sup>	Start Time	Log File <sup>*</sup>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	CDRAGT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 15:29:53 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-46-20-43.r_cucm9110cnapub_ucm_cdragct.log</a>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	SYSDAGGT	100	SUCCESS	Tue Dec 03 15:32:05 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-46-20-43.r_cucm9110cnapub_ucm_syndagct.log</a>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	COMPRES	100	SUCCESS	Tue Dec 03 15:32:05 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-46-20-43.r_cucm9110cnapub_ucm_compres.log</a>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	PLATFORM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 15:32:07 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-46-20-43.r_cucm9110cnapub_ucm_platform.log</a>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	CM	100	SUCCESS	Tue Dec 03 15:32:09 EST 2013	<a href="#">2013-12-03-14-46-20-43.r_cucm9110cnapub_ucm_cm.log</a>	
UCM	CUCM9110CNAPUS	CONFDB	00 - 12/03/13 15:41:57 - Restoring Publisher from Subscriber Backup	Active	Tue Dec 03 15:42:10 EST 2013		
UCM	CUCM9110CNAPUS	TEST	0	---	---		
Refresh							

## パブリッシャデータベースでの健全性チェックの実行

再起動してレプリケーションを設定する前に、リストアが正常に行われ、パブリッシャDBに必要な情報が含まれていることを確認することをお勧めします。

次のクエリを実行する前に、パブリッシャノードとサブスクライバノードで同じ値が返されることを確認してください。

- デバイスからsql select count(\*)を実行
- エンドユーザーからsql select count(\*)を実行する

## クラスタのリブート

復元が完了したら、各ノードでutils system restartコマンドを入力します。パブリッシャから開始し、その後に各サブスクライバを続けます。

```
<#root>
```

```
admin:
```

```
utils system restart
```

```
Do you really want to restart ?
```

```
Enter (yes/no)? yes
```

```
Appliance is being Restarted ...
```

```
Warning: Restart could take up to 5 minutes.
```

```
Shutting down Service Manager. Please wait...
```

```
\ Service Manager shutting down services... Please Wait
```

```
Broadcast message from root (Tue Dec 3 14:29:09 2013):
```

```
The system is going down for reboot NOW!
```

Waiting .

Operation succeeded

## レプリケーション設定の要件の確認

Cisco Unified Reportingページに移動し、Unified CMデータベースステータスレポートを生成します。

レプリケーションはまだ設定されていない可能性があります。Unified CMホスト、Unified CM Rhosts、およびUnified CM Sqlhostsファイルがパブリッシャと一致していることを確認することが重要です。

一致しない場合は、一致しないノードを再度リポートする必要があります。これらのファイルが一致しない場合は、次の手順に進んだり、レプリケーションをリセットしたりしないでください。

### Unified CM Hosts



All servers have equivalent host files

[+View Details](#)

### Unified CM Rhosts



All servers have equivalent rhosts files.



All servers have equivalent rhosts files.

[+View Details](#)

### Unified CM Sqlhosts



All servers have equivalent sqlhosts files.



All servers have equivalent sqlhosts files.

[+View Details](#)

## 複製の設定

バージョンによっては、レプリケーションを自動的に設定できません。これを確認するには、すべてのサービスが起動するのを待って、utils dbreplication runtimestateコマンドを入力します。

状態の値0はセットアップが進行中であることを示し、値2は、そのノードのレプリケーションが正常にセットアップされていることを示します。

次の出力は、レプリケーションのセットアップが進行中であることを示しています(状態は、2つのノードに対して0として表示されます)。

```
admin:utils dbreplication runtimestate
```

SERVER-NAME	IP ADDRESS	PING (msec)	RPC?	CDR Server (ID) & STATUS	REPL. QUEUE	DBver& TABLES	REPL. LOOP?	REPLICATION SETUP (RTMT) & details
cucm911ccnapub	172.18.172.212	0.043	Yes	(2) Connected	0	match	Yes	(2) PUB Setup Completed
cucm911ccnasub1	172.18.172.213	0.626	Yes	(3) Connected	1920	match	Yes	(0) Setup Completed
cucm911ccnasub2	172.18.172.214	0.676	Yes	(4) Connected	0	match	Yes	(0) Setup Completed

次の出力は、レプリケーションが正常にセットアップされたことを示しています。

```
admin:utils dbreplication runtimestate
```

Cluster Detailed View from cucm911ccnapub (3 Servers):

SERVER-NAME	IP ADDRESS	PING (msec)	RPC?	CDR Server (ID) & STATUS	REPL. QUEUE	DBver& TABLES	REPL. LOOP?	REPLICATION SETUP (RTMT) & details
cucm911ccnapub	172.18.172.212	0.043	Yes	(2) Connected	0	match	Yes	(2) PUB Setup Completed
cucm911ccnasub1	172.18.172.213	8.858	Yes	(3) Connected	0	match	Yes	(2) Setup Completed
cucm911ccnasub2	172.18.172.214	0.729	Yes	(4) Connected	0	match	Yes	(2) Setup Completed

状態値4を持つノードが表示された場合、または複製が数時間後に正常に設定されない場合は、パブリッシャノードからutils dbreplication reset allコマンドを入力します。

レプリケーションが引き続き失敗する場合、問題のトラブルシューティング方法の詳細については、シスコの記事「[LinuxアプライアンスモデルでのCUCMデータベースレプリケーションのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

## 復元後

DBの復元では以前のコンポーネントがすべて復元されるわけではないため、多くのサーバレベルの項目は手動でインストールまたは復元する必要があります。

### サービスのアクティブ化

DRFの復元では、サービスはアクティブになりません。Tools > Service Activationの順に移動し、Unified Serviceabilityページのサイトのドキュメントに基づいて、パブリッシャが実行する必要がある必要なサービスをアクティブにします。

**Service Activation** Relate

Save Set to Default Refresh

Status:  
Ready

Select Server

Server\* 172.18.172.212 Go


Check All Services

CM Services		
	Service Name	Activation Status
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco CallManager	Activated
<input type="checkbox"/>	Cisco Messaging Interface	Deactivated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Unified Mobile Voice Access Service	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco IP Voice Media Streaming App	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco CTIManager	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Extension Mobility	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Extended Functions	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco DHCP Monitor Service	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Intercluster Lookup Service	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Location Bandwidth Manager	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Dialed Number Analyzer Server	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Dialed Number Analyzer	Activated
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Tftp	Activated

## 復元されなかったデータのインストール

完全バックアップが使用できない場合は、特定の手動設定を再現する必要があります。特に、証明書とTFTP機能を含む設定は次のとおりです。

- MoHファイル
- デバイスパック
- ダイヤルプラン(北米以外の番号計画(NANP)ダイヤル用)
- ロケール
- その他のCOPファイル
- 以前にパブリッシャに手動でアップロードされたファイル ( TFTPサーバの場合 )
- Simple Network Management Protocol ( SNMP ) のコミュニティ ストリング
- Extension Mobility Cross Cluster(EMCC)、Intercluster Location Bandwidth Manager(LBM)、およびIntercluster Lookup Service(ILS)の証明書の一括エクスポート
- セキュアなトランク、ゲートウェイ、および会議ブリッジの証明書交換

 注：混合モードクラスタの場合は、証明書信頼リスト(CTL)クライアントを再実行する必要があります。

## トラブルシューティング

このセクションでは、この手順が失敗する原因となる可能性のあるさまざまなシナリオについて説明します。

## クラスタが認証されない

クラスタが認証されない場合、最も一般的な2つの原因は、セキュリティパスフレーズの不一致とTCPポート8500の接続の問題です。

クラスタセキュリティパスフレーズが一致することを確認するには、両方のノードのCLIでutils create report platformコマンドを入力し、platformConfig.xmlファイルのハッシュ値を調べます。これらはパブリッシャノードとサブスクライバノードで一致している必要があります。

```
<#root>
```

```
<IPSecSecurityPwCrypt>  
  <ParamNameText>Security PW for this node</ParamNameText>  
  <ParamDefaultValue>password</ParamDefaultValue><ParamValue>
```

```
0F989713763893AC831812812AB2825C8318  
  12812AB2825C831812812AB2825C
```

```
</ParamValue>  
</IPSecSecurityPwCrypt>
```

これらが一致する場合は、ポート8500のTCP接続を確認します。これらが一致しない場合、手順を取り囲むCUCMコードにいくつかの不具合があるため、パスフレーズを修正するときに問題が発生する可能性があります。

- Cisco Bug ID [CSCtn79868](#):pwrecoveryツールがsftpuserパスワードだけをリセットする
- Cisco Bug ID [CSCug92142](#) - pwrecoveryツールで内部ユーザパスワードが更新されない
- Cisco Bug ID [CSCug97360](#):pwrecoveryユーティリティでのselinux denials
- Cisco Bug ID [CSCts10778](#) : セキュリティパスワード回復手順で拒否がスローされる
- Cisco Bug ID [CSCua09290](#):CLIの「set password user security」で正しいアプリケーションパスワードが設定されなかった
- Cisco Bug ID [CSCtx45528](#):pwd reset cliで「good」が返されるが、パスワードは変更されない
- Cisco Bug ID [CSCup30002](#):CUCM 10.5でセキュリティパスワードを変更した後、DBサービスがダウンする
- Cisco Bug ID [CSCus13276](#):CUCM 10.5.2のセキュリティパスワード回復により、リポート時にDBが起動しない

CUCMバージョンにこれらのすべての問題に対する修正が含まれている場合、最も簡単な解決策は、すべてのノードで『[Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide, Release 10.0\(1\)](#)』に記載されているパスワード回復手順を実行することです。

CUCMバージョンにこれらの問題の修正が含まれていない場合は、状況に応じて、Cisco Technical Assistance Center(TAC)で回避策を実行できます。

## 復元でCCMDBコンポーネントが処理されない

復元でDBコンポーネントが表示されない場合は、バックアップ自体にDBコンポーネントが含ま



れていない可能性があります。パブリッシャDBが実行され、クエリを受け入れることができることを確認し、新しいバックアップを実行します。

## 複製の失敗

レプリケーションの障害をトラブルシューティングするには、シスコの記事「[LinuxアプライアンスモデルでのCUCMデータベースレプリケーションのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

## 電話機が登録されない、またはサービスにアクセスできない


DBの復元では証明書は復元されないため、パブリッシャがプライマリTFTPサーバの場合、署名者は異なります。

電話がSubscriber Trust Verification Service(TVS)証明書を信頼し、電話とTVSサーバ間でTCPポート2445が開いている場合、問題は自動的に解決される必要があります。

このため、完全なクラスタDRFバックアップを維持することをお勧めします。

バージョン8.6よりも前のCUCMバージョンでは、以前に正常にバックアップした場合でも、Cisco Bug ID [CSCtn50405](#)が原因で証明書の問題が発生する可能性があります。

---

 注:Initial Trust List(ITL)ファイルのトラブルシューティングの詳細については、シスコの記事「[Communications Manager Security By Default and ITL Operation and Troubleshooting](#)」を参照してください。

---

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。